

東京の自然

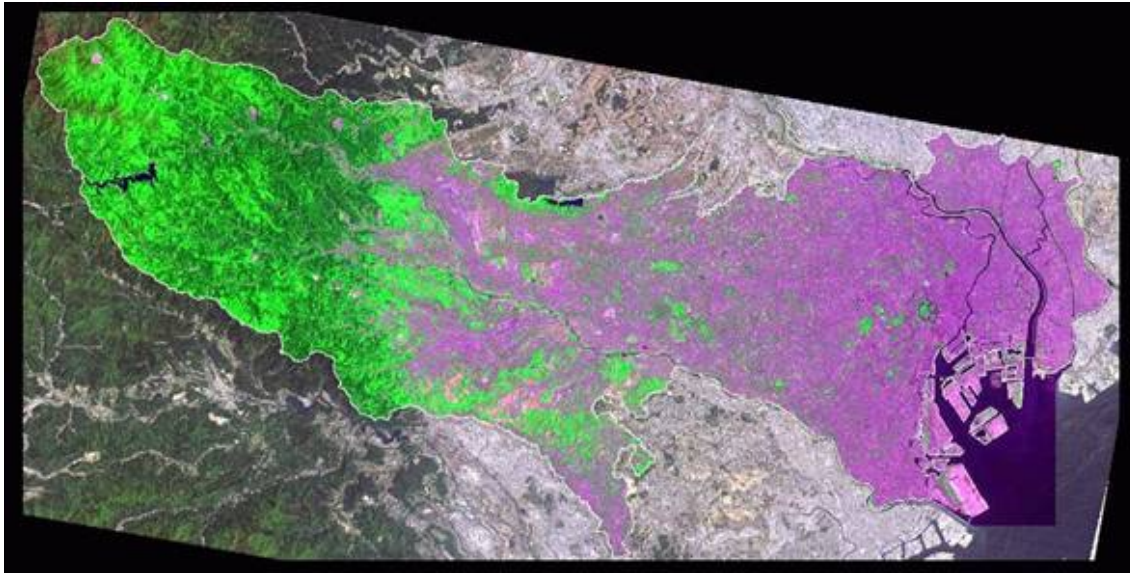
2050年
世界に誇る自然共生都市「東京」

株式会社東京チェンソーズ 青木亮輔

「自然」

山・川・海やそこに生きる万物。
人間を育み恵みを与える一方、災害をもたら
らし、人間の介入に対して常に立ちはだか
るもの。

東京の山（森林）



東京の森林面積 8万ha ※1

東京の森林率は36%

ちなみに、日本の森林面積2500万ha※2

※1 東京都産業労働局「東京の森林・林業」より

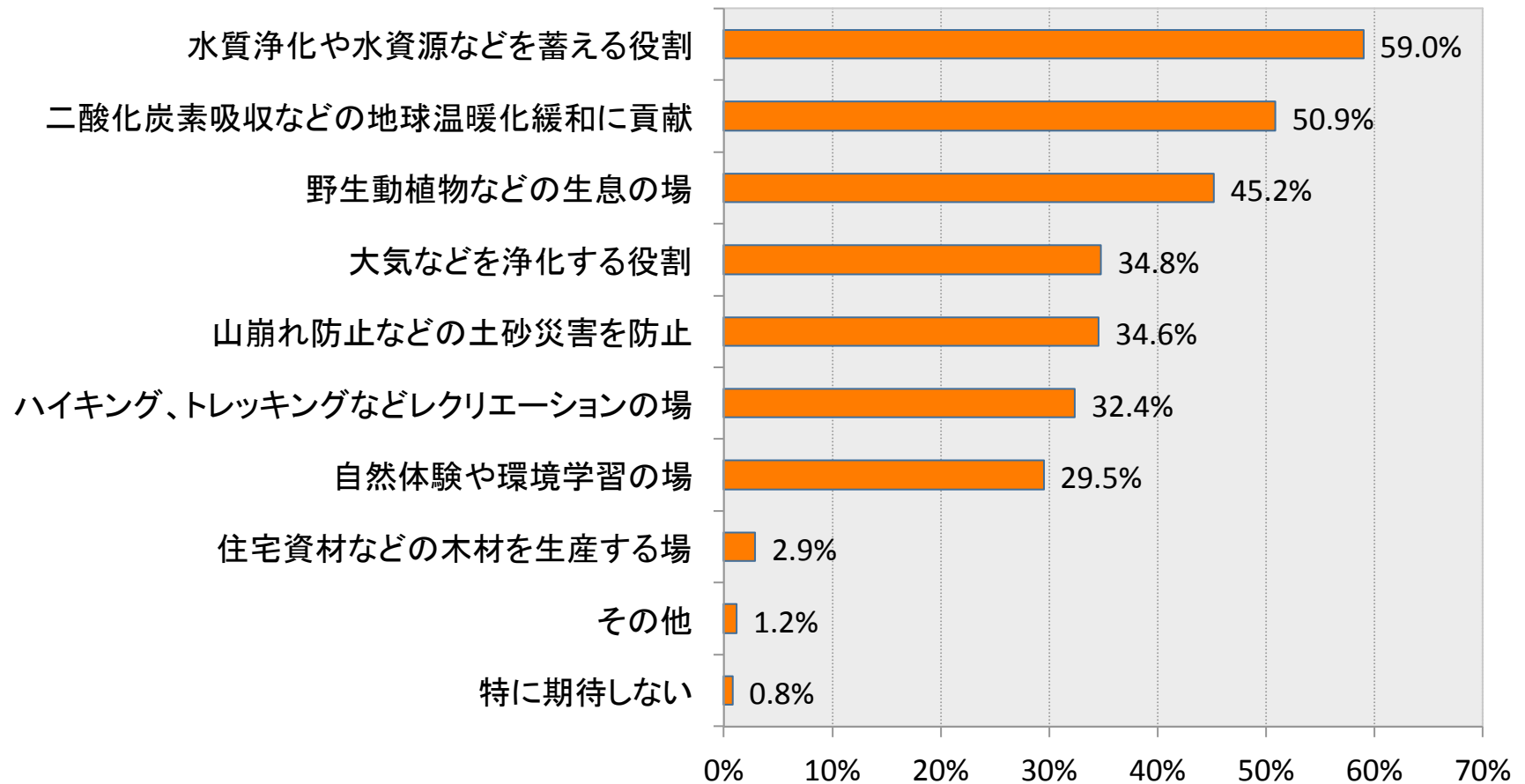
※2 林野庁HPより



東京の森林への期待

※H24都政モニターアンケートより抜粋

Q2. あなたは東京の森林にどのような機能や役割を期待しますか。次の中から3つまで選んでください。



森林には多面的機能がある

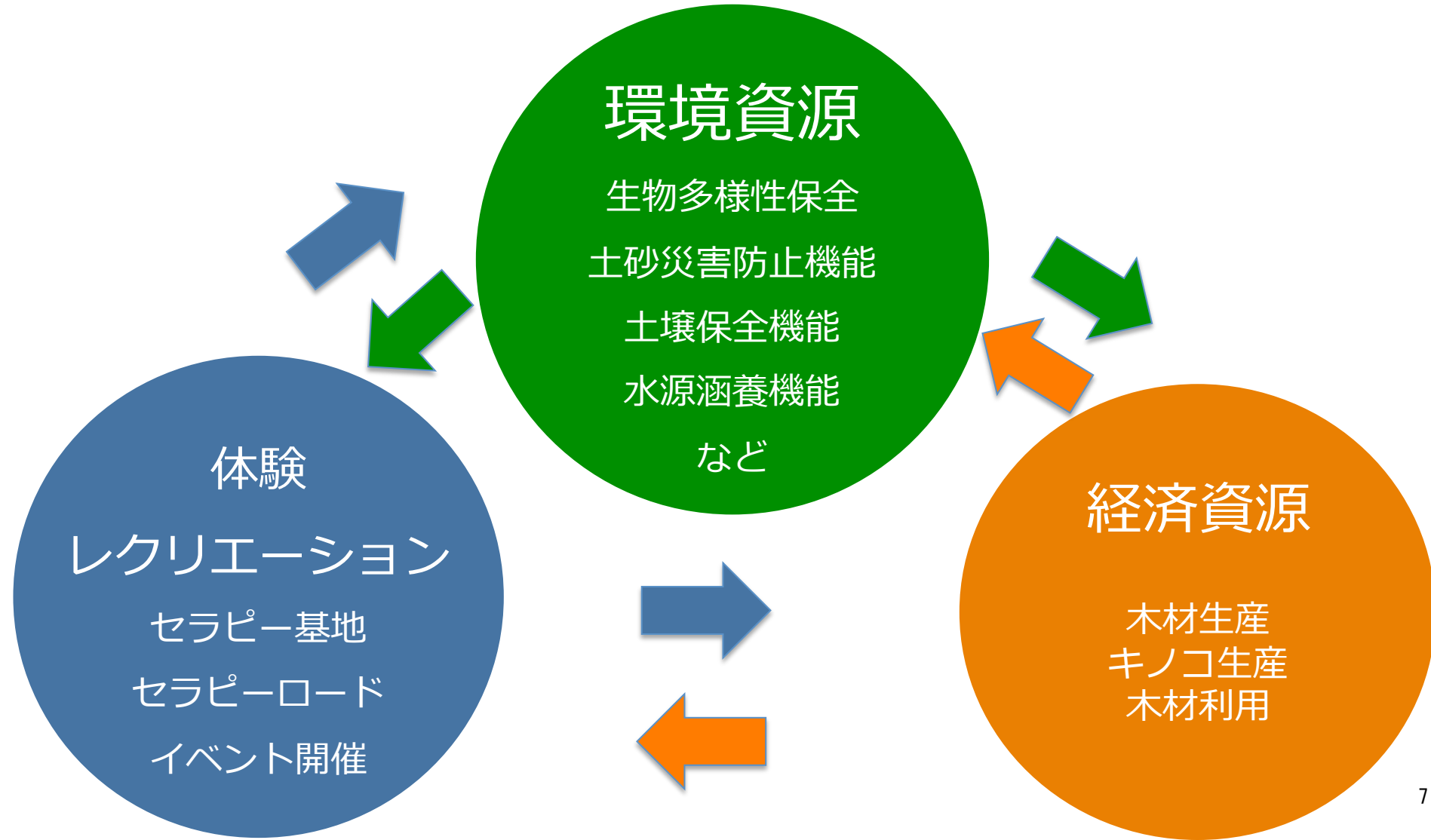
経済資源としての機能 6700億円

環境資源としての機能 70兆円

日本学術会議試算より

● 森林のめぐみを享受したい

「整備の行き届いた森の体験」を通じて「木のある暮らし」につなげ豊かに暮らすこと。



美術館や映画館へ行くように

2050年、樹齢100年の森をどう迎えるか。

やることは2つ。

①「人づくり」

森林作業従事者200人→2000人（昭和35年レベル）に戻す

②「誰でも入れる森へ」

100年の森への受け入れ体制の強化
ハイキングコース・標識・セラピー基地、セラピーロード、トイレなどの
インフラ整備（バリアフリー対応含む）







230

← 山菜の路

← ツガの路・ブナの路
至 鞆口峠







A box

川（多摩川）

昭和40年代の多摩川は水質悪化が進み、洗剤の泡が浮く汚濁河川であった。その後昭和50年代後半には、アユの遡上が確認されるまでに水質が改善され、近年では清流といわれている四万十川と比較しても遜色のない程度の良い水質となっている。



情操空間

多摩川では、豊かな自然環境を保ちながら
みんながきちんと河川を利用できるように、
「多摩川 河川環境管理計画」及び、
「多摩川水系河川整備計画」を策定し、
それに基づき多摩川の河原を8つの機能区間に
分けて管理しています。
そのひとつが「情 操 空 間」で、
むやみな立ち入りを禁止し、貴重な生物などを
守っています。
この付近一帯は、その「情 操 空 間」
として位置付けられています。
よって河川の自然形態を人為的に変状させる
次の行為を禁じます。

- 草刈（除草剤等の使用）
- ラジコン飛行機場の設置
- 工作物（小屋等）の設置
- モトクロス等による自然地の踏み荒らし
- ゴミ投棄・放置
- 焚き火（タバコの投げ捨て、その他火気の使用）
- 軽便車、車両の乗り入れ
- 耕作（栽培種、外来種の持ち込み）
- 多摩川に本来存在しない種類の魚の放流
- その他、他の自然環境を阻害する行為（ブルーギル等）

（国土交通省・東京都・神奈川県・流城市町村）



多摩川を日本一の清流へ

①触れ合える多摩川へ

都民に身近な自然「多摩川」の利用を促進

多摩川河川敷の空間整備（キャンプ場新設、遊歩道などのバリアフリー化など）

河川空間を利用したイベントの開催

②さらなる水質改善へ

雨天時流入水対策・魚道の拡充

自然共生を1370万人の都民運動へ

東京都主催「自然共生フェス」開催
都内キャンプ場や河川の空間など都内全域で開催。
自然と触れ合う日に制定など



2050年の「東京の自然」

2050年の東京には樹齢100年の広大な森林が広がっています。

多摩川は日本一の清流となっています。

そして、その豊かな自然と都民がとても近い暮らしをしています。

世界に誇れる自然共生都市として海外からも多くの人々が訪れるようになります。

「自然共生都市モデル」が輸出産業に。

ご静聴ありがとうございました。

(株)東京チェーンソーズ

青  亮輔